

「うちの子 かわいっ 親ばか日記2」を目にして

元学生から、今月出版された書籍「－自閉症児 あやの育児まんが－ うちの子 かわいっ 親ばか日記2（入学編）」をいただいた。

本の著者は彼の奥さんで、お子さんの育児の様子をご自身がマンガに描いたものである。幼児期の様子を平成15年7月に第1巻（「うちの子 かわいっ 親ばか日記」）として出版されていますから、今回はその続編。

確か1冊目は、著者が出版社に持ち込んで出版に至ったと聞いている。ファイトあるお母さんである！

著者も2冊目からか、要領よく描かれているような気がした。

本のタイトルには、「育児まんが」とあるが、マンガというより、文章では表現できないところをスケッチやマンガで表現したものとの印象を受けた。確かに、親子が係わり合う様子を文章にするには表現し難いところが多いし、また、マンガという手法だけにニューモア的に表現もでき、適切な表現方法かなと思う。

それよりも、障害児の育児に関しては、親が書いた多くの本が出版されているが、一時的なものか、過去を振り返って書かれたものか、はたまた、色んな事例を繋ぎ合わせてのフィクションものだけに、こうした一人の子どもと家族の現在進行形の継続的な育児書の出版は貴重である。

更に、母親として育児という現在進行形を兼ねながら、メモ的に描き続ける著者の粘りとファイトには敬服する。

現職時代、「症例が目浮かび、しかも時系列的なレポートを書くことを心懸けるように！そうでないと、レポートの趣旨が、同様な症例に活用して貰えないよ！」と、よくスタッフに話していた。

それだけに、こうした現在進行形の、しかも視覚的要素であるマンガ手法の育児書は、障害児との係わり合い方のヒントになると思う。

これからも、育児の迷い、戸惑いも含め、現在進行形の型で継続出版されることを切に願う。

このファイトある著者なら、継続してくれるだろうと思う。

ファイトある母親とご家族に、エールを贈りたい。

現在進行形の時折の「育児マンガ」コーナーもあるご家族の HP「あかるく あかるく」（<http://www.asahi-net.or.jp/~ay9s-ab/>）をご訪問ください。

（2006年3月23日 記）